

■知的障害や視覚障害のある子どもたちなどへの実践事例

子どもの視点に立った読書活動の推進と読書環境の整備 ～多様な背景を持つ子どもへの読書機会の提供～

鹿児島県霧島市立国分中学校

教諭 松田 ひとみ

はじめに

本校には、1年生167名、2年生179名、3年生183名、計529名の生徒が在籍しています。また、全国的に増加傾向にある特別支援学級の数も8学級（知的障害特別支援学級4、自閉症・情緒障害特別支援学級4）となっています。さらに、通常の学級に在籍している中にも困り感の強い生徒たちが在籍しており、その数は年々増えてきています。この点については、2022年12月13日に文部科学省から発表された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年）について」でも明らかです。そのため、図書館利用における利用者ニーズもさまざまです。

実践報告の主軸

今回は、2023年3月28日に閣議決定された第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の中で私自身が注目する以下の2点について、マルチメディアDAISY図書の活用に焦点を絞って実践報告をさせていただきます。

たいと考えています。

- | |
|---------------------------------|
| その1 多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書環境の整備 |
| その2 子どもたちの視点に立った読書活動の推進 |

マルチメディアDAISY図書活用 の実際

（1）「多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書環境の整備」

これまでの『わいわい文庫活用術』の中でもご紹介してきたように、本校では、2019年からマルチメディアDAISY図書を活用しており、よりよい活用をめざすために、以下の3つの点に着目して読書環境の整備に努めています。

①所蔵場所

所蔵場所は、本校図書館と決めており、学校司書が管理しています。マルチメディアDAISY図書の寄贈を受けている学校の中には読書指導主任が個人で管理する学校もあるかと思いますが、しかし、個人管理にすると、「利便さ」

という側面において問題が生じます。図書館には書籍以外にもさまざまな情報媒体が保管されていますが、利便性が伴わなければ、それらの利用率が伸びることはありません。図書館に所蔵する利点は、図書館の開館時間帯であれば、「いつでも気軽に利用できる」という点であり、本校がマルチメディアDAISY図書の所蔵場所を図書館としている根拠にもつながっています。

②図書館からの情報発信

さらに本校では、マルチメディアDAISY図書のよりよい活用をめざして、図書館からの情報発信を行っています。

学校司書による図書館便りの発行や館内の掲示など、さまざまな形の情報発信を行うことも読書環境を整えるうえでの重要なポイントの一つになると考えています。情報発信する際にも「どの引き出しからその情報を発信するか」ということについて、読書指導担当者が互いにアイデアを持ち寄って検討する必要があると感じています。生徒たちはそれぞれに興味・関心が異なり、どの発信方法が彼らのアンテナに届きやすいかと考えると、自ずと発信方法について検討する際にも多角的な考え方が必要であることがわかってきます。

③マルチメディアDAISY図書の利用体験

マルチメディアDAISY図書はDAISY

図書の一つです。DAISY図書には大きく分けて3種類あり、マルチメディアDAISY図書以外にも音声DAISYやテキストDAISYなどがあります。

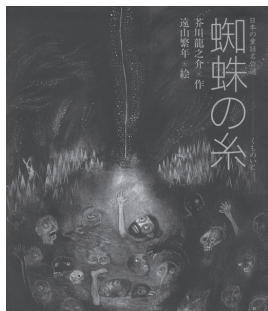
1990年代に音声中心の規格として誕生したDAISYはその後も改良が続けられ、気軽に利用できる今の形に変化しました。

開発から数えると長い年月が経っていますが、一般的な認知度として考えるとまだ高い状況にあるとはいえません。ただ、マルチメディアDAISY図書にはさまざまなアクセシビリティ機能もついており、読書に対して何らかの障壁を感じている生徒たちにとって、その障壁を低くするうえでの有効なツールの一つです。

さまざまな読書ニーズをもつ生徒たちに公平に利用体験をしてもらうために、本校では年間読書指導計画の中にマルチメディアDAISY図書の利用を位置づけています。今年度は、生徒会の専門部（図書部）が、昼休みにマルチメディアDAISY図書のお話を企画し、実施しました。



マルチメディアDAISY図書のお話会



作品名：『蜘蛛の糸』
作：芥川龍之介
絵：遠山繁年
出版社：偕成社
再生時間：15分
収納場所：2021-Ver3
ISBN：978-4-03-963670-6

（２）「子どもの視点に立った読書活動の推進」

第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の中で私がもっとも注目しているのはこの「子どもの視点に立った読書活動の推進」という柱です。

本計画においては「第２章 基本方針」の４つめの項目として位置づけられており、子どもが主体的に読書活動を行えるよう、子どもの意見聴取の機会を確保することの重要性が示されています。

本校においても、マルチメディアDAISY図書を活用する場合には、生徒たちの実態把握を行ったうえで利用を検討するようにしています。

ここでは、３つの活用例についての実践報告を行います。

①知的障害特別支援学級における授業での活用

今年度は、知的障害特別支援学級２年生の担任をしており、生徒の実態に応じて、道徳や自立活動、国語の授業においてマルチメディアDAISY図書を活用しています。

活用のタイミングはさまざまで、新しい単元が始まる前の導入に用いることもあれば、学習内容の発展学習として用いることもあります。また、自立活動においては６区分２７項目の目標を達成させるうえで内容理解につなぐために活用することもあります。

私自身は、日頃から生徒たちの声に耳を傾けるカウンセリングマインドの姿勢を忘れないように意識しており、生徒たちの行動観察や彼らのなにげないつぶやきから活用する作品を決めて指導計画を立てるようにしています。

<自立活動での活用例>



作品名：『NHK#もしかして…おとなにたたかれたの？ おとながたすけてくれないの？』

作：NHK「#もしかして…」制作班

絵：飯田千里

出版社：金の星社

再生時間：11分

収録場所：2022-Ver.2

ISBN：978-4-323-02808-8

知的障害特別支援学級では、生徒たちが豊かで幸せな生活や自立した社会生活を送ることができるように児童生徒の力を高めることが重要です。また、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要」の「第4章子どもの読書活動の推進方策② IV」でも示されているように学校等でも「多様な背景をもつ子ども」たちが増えてきており、実生活につながる学びを実現することが切実な問題にもなっています。

この作品を活用した授業では、以下の指導内容の実現のためにマルチメディアDAISY図書を用いて授業を行いました。

指導内容

〈心理的な安定〉

- ・情緒の安定に関すること
- ・状況の理解と変化への対応に関すること

〈人間関係の形成〉

- ・他者の意図や感情の理解に関すること

〈環境の把握〉

- ・保有する感覚の活用に関すること
- ・認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

〈コミュニケーション〉

- ・コミュニケーションの基礎能力に関すること



自立活動の一場面

作品名	『おとなにたたかれたの？おとながたすけてくれないの？』
作者名	奥山 眞紀子 監修
出版社	金の星社

ぼうりよくはダメ!


いろいろな意見がいろいろだと思いましたが、
このときには、相談したり、交番の人に言うのも
いいかもしれないと思った。

<国語での活用例>

「ビブリオバトルにチャレンジしてみよう」

中学2年生の教科書の学習内容に、「ビブリオバトル」が入っています。そのため、本授業ではマルチメディアDAISY図書を用いてビブリオバトルの授業を行いました。対象生徒たちは好んで読書に取り組む姿勢をもっています。しかし、特性によって、習得した知識や技術が偏ったり、断片的になったりしやすいことから、ビブリオバトルに使用する本をマルチメディアDAISY図書としました。

生徒たちは何枚ものマルチメディアDAISY図書を表にしたり、裏返したりしながら、タイトルを必死に目で追い、それぞれに自分の好みの作品を1作品選びました。こういった一連の活動を楽しむ中で、生徒たちの姿からは興味、関心の高まりが感じられました。視聴方法については、パソコンで画面を見せたときの反応が弱かったため、テレビ画面を用いて視聴させることにしました。気持ちについての表現方法としてオノマトペを使用して説明させたことで、発表する際にも、発表を聞く際にも、内容についての理解が深まり、楽しみながら自分の気に入った本についてビブリオバトルを展開することができていました。

ビブリオバトル（書評合戦）にチャレンジしてみよう	
本のタイトル：『ももたろう 番外巻 ようしょう山の巻』	
著者名	：
出版社	：
【 おすすめのポイント（お気に入りのポイント） 】 絵（イラスト） ・ 文章（言葉） ・ 音読のおもしろさ 【 読んでどんな気持ちになった？ 】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ドキドキ→ええー？ ★ </div>	
【 内容の紹介 】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ようしょう山でオビ太郎が 鬼をたいびする言が た。でもやっつけられも 鬼は、復活した。 ・・・なぜかは読んで からの楽しみ。 </div>
	
(6分)	



作品名：『ももたろう ばんがいへん
ようしょう山のまき』

文：金光英子

絵：野谷幸子

出版社：伊藤忠記念財団

再生時間：6分

収納場所：2020-Ver.BLUE

②視覚障害のある生徒に対する活用

本校には視覚障害のある生徒が在籍しています。その生徒の図書館利用状

況を調べたところ、図書カードに書かれていたのはわずかな本の記録だけでした。

そこで、生徒の状況を確認するために話を聞いたところ、「本が嫌いなわけではなく、読める本がなかなかない」という返事が返ってきました。すぐに学校司書や読書指導担当者、管理職にその状況について説明し、まずは大活字本の購入ができないか検討することにしました。生徒への聞き取りをもとに、最終的にはその生徒自身が自分で好きなジャンルの本を選べるようにしました。また、この際には本校の学校司書がすでに大活字本を所蔵している中学校から見本として数冊の本を借りてきてくださったことも、購入までの流れをスピーディーに進めるうえでの大きな力につながりました。生徒への聞き取りをもとに本年度の予算で大活字本を書架に並べることができたことは、本校の読書環境を整えるうえでの新しい一歩につながったのではないかと考えています。

さらに本市にある国分図書館も、読みに困難のある子どもたちの読書に対する障壁を軽減するために大活字本の購入を決定してくださいました。子どもたちの困り感を知ったライブラリアンがスピーディーに動いてくださる姿を見ながら、本市のライブラリアンの利用者ニーズに寄り添う姿勢と行動力

に感動しました。

また、生徒に行った聞き取りの中で「マルチメディアDAISY図書のことは知らないし、利用したこともない」という話があったため、以下の本をピックアップし、実際に利用体験をしてもらいました。



作品名『おしえてウルトラマン』

作：宮西達也

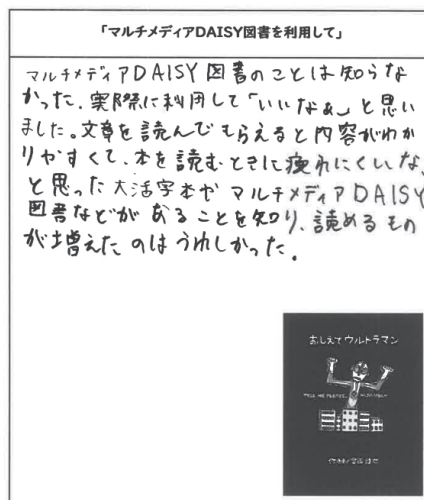
絵：宮西達也

出版社：学研プラス

再生時間：14分

収納場所：2021-Ver.3

ISBN：978-4-05-201039-2



おわりに

読み書きに困難のある生徒たちの読書への障壁となるものは、個々によって異なります。視覚障害のある生徒だけでなく、読むことに困難のある生徒たちにとって大活字本やマルチメディアDAISY図書の利用は、読書への障壁となっている読むことへの困難を小さくしたり、低くしたりすることができます。

視覚障害がある生徒がマルチメディアDAISY図書を初めて視聴したときに「マルチメディアDAISY図書という存在も知らなかったけれど、おもしろいし、読んでくれるから疲れにくい。お

もしろそうな作品があったら、また利用してみたい」といきいきした表情で感想を聞かせてくれたとき、図書館の読書環境を整えるうえでいちばん核になるべきはやはりマンパワーであると改めて感じました。図書館運営に携わり、利用者ニーズについて真剣に考え、行動する人たちがいるからこそ、図書館本来の存在意義をいかせるのだと思います。

急激に変化する時代であるからこそ、私たちは図書館の三要素「空間（施設）・人（職員）・資料」について、改めてその重要性を考える時を迎えているのではないかと考えます。

